

緑西 直言

新型コロナウイルス感染を 経験して得たもの・失ったもの

徳永
隆司

S
60 卒

西宮協立脳神経外科病院
脳神経内科部長

新型コロナウイルス感染が蔓延して早3年の歳月が経ち、私の勤める病院でもコロナ患者さんへの対応はもとより我々医療従事者が如何にコロナ禍に巻き込まれないかを十二分に注意しながら日々の診療を送っております。昨年は院内感染が相次ぎ一時的に病棟閉鎖に追い込まれた時期がありました。私自身も外来・病棟診療時にできる限りの感染予防に努めておりましたが昨年の8月6日に感染してしまい、10日間の自宅幽閉生活を余儀なくされました。

3日目頃から体調は回復し、10日後より仕事に復帰いたしました。その頃より右肩甲骨内側と脊椎の間に違和感を感じるようになり、徐々に同部の疼痛へと移行しました。頸椎から胸椎 MRI や胸背部 CT による脊髄・神経根や疼痛部位周辺の筋肉には何ら異常所見はなく、NSAIDs も試しましたが殆ど効きません。筋肉・神経疾患を専門とする自分がこのような疼痛に苦しめられるとはお恥ずかしい限りですが半年ほど経った時には板敷などの硬い床の上に仰臥位になれない程ひどくなっていて、現在プレガバリン（リリカ）75mg 錠を1日3回服用しつつ患部への鍼灸治療を施して疼痛コントロール中です。新型コロナウイルスの後遺症については全世界から様々な報告が上がっており、脳神経領域では嗅覚・味覚障害からブレインフォグ、眩暈・耳鳴、聴力低下、振戦、small fiber neuropathy などがあります。我々の施設でも3年前のコロナ禍以来ベル麻痺、ギランバレー症候群、CIDP

（慢性炎症性脱髄性多発根神経症）が例年の2～3倍増加しており末梢神経障害を引き起こしている可能性が大きいと実感しています。私以外にも同じような疼痛に悩まされている方も多く、“慢性疼痛、筋痛”という合併症は small fiber neuropathy の1症状と推察されますが、これらの後遺症は検証が進むにつれ新型コロナウイルス感染との因果関係が詳らかにされていくであろうと思います。

一方、新型コロナウイルスに感染して思わぬ拾い物をしたのも事実です。このことは既に2022年12月の西宮医師会会報「談話室」にコラムで掲載して頂きましたのでご存知の方もいらっしゃるかと思いますが（ご存知のない方は「談話室」をご覧ください）、透明水彩画という趣味ができ、お絵描きを通じて多くの方と知り合いになることで新たな交流関係を持つことができた点では今回のことは得難い経験であったと思っています。

新型コロナウイルスに感染したことは不幸なことに違いなく、痛みのせいでこれまで普通にできていた運動や娯楽・スポーツができずに失われた有意義な肉体的、精神的活動の損失は小さくありません。しかしそのおかげで水彩画という新しい趣味が持てた事を考えたとき、この感染は私にとって時代の流れと肉体の変貌による自らの生活変容を余儀なくしからしめた絶妙なる神の采配ではなかったかとしみじみ思っています。

西宮市保健所で 働いてくださる医師を 募集しています



西宮市健康福祉局 保健所 所長
福田 典子

H6卒

緑西会の皆さま、こんにちは。平成6年卒の福田典子と申します。保科先生にお声がけ頂き、寄稿する機会を与えて頂きました、ありがとうございます。お声がけ頂きましたのはおそらく、保健所で働いているという非常にニッチな存在であるから、大学のお膝元で多くの卒業生の先生方がおられる西宮市の市役所で働いているから、コロナ関係で色々な経験をしたであろうから、ではないかと思っています。

私は卒業後小児科医として働いておりました。臨床医とは違った環境で働いてみたい、母子保健などの地域保健もおもしろそうだと思ったタイミングと、西宮市保健所が医師を募集していたタイミングがちょうど重なり、縁あって転職致しました。

特に公衆衛生に詳しいわけでもなく（保健所で働く医師のほとんどが、この状態で飛び込んで来るようです）、臨床に疲れきったわけでもなく、の転職でしたが、コロナによる世界的パンデミックが起きるとは予想もせず、また、こんなに早く保健所長になると思っていなかったのも、この3年間とはかく、今日を乗り切らねばならない目の前の仕事を頑張る、という目まぐるしい毎日でした。保健所で働きはじめ、もうすぐ5年になりますが、最近になってやっと、社会の役に立つ仕事をしていると思える余裕が、少し出てきた気がします。そして公衆衛生の想像以上にダイナミックなところに、魅力を感じております。ちょっと中毒性がある気がします。

もしこの原稿を読んでくださっている皆さまの中に、保健所に興味をお持ちの先生がおられましたら、是非ご連絡ください。西宮市保健所で働いてくださる医師を募集しております！（なりふり構わず、広報の絶好のチャンスと思い、タイトルにしました）医師は私ともう一名、子育て世代の女医さんがおりますが（ワークライフバランスもばっちりです）、健康危機管理の最前線である保健所を強化するためにも、また複雑化する地域医療の課題に取り組むためにも、保健所の医師体制を強化する予定です。さらにアピールさせていただきますと、昨年秋に引っ越しをしまして、職場も快適な空間となっております。医者人生の数年間を、“全国でも有数の都市型保健所（私見）”で働いてみませんか。個人的にはスタイリッシュな保健所を目指しています。

最後になりましたが、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2021/5/30 05:30 神戸新聞NEXT

「第4波」で自宅療養激増、極限の支援 西宮市保健所ルポ



西宮市保健所2階。個人やクラスター（感染者集団）の調査に忙しい。西宮市江上町



「患者が求める医療を提供できない事態は、災害と呼ぶしかない」。4月中旬、兵庫県西宮市保健所（西宮市江上町）で職員らが口にした。新型コロナウイルスの感染「第4波」の到来で病床が逼迫（ひっばく）し、自宅療養を余儀なくされる感染者が増えた。患者宅への酸素供給や医師の往診依頼にも、準備がままならない中で対応が求められた。新規感染者数が一定収まってきた5月19日、西宮市保健所取材した。（中川 恵）

「どれくらいの熱ですか」。西宮市保健所2階フロアの一角にある「疫学調査」エリア。保健師が電話で聞き取って書きとめる。

症状や既往症、濃厚接触者の有無を調べる疫学調査。感染拡大を防ぐために欠かせないが、第4波では患者が増えすぎたため、本人への聞き取りだけに簡略化した。ただ、保健師の女性（42）は「調査は感染を広げないために続ける。やめることは残念を播てることだ」と話す。

コロナ対応は、医療機関から送られてくる「発生届」の受領から始まる。名前や症状

最も業務が逼迫していた頃の保健所

明和病院での 頭頸部診療と 今後の目標



明和病院 耳鼻咽喉科
頭頸部腫瘍担当部長

宇和 伸浩

H14年卒

緑西会の皆様、平素より大変お世話になります。
平成14年卒の宇和伸浩と申します。2022年2月より長らく勤務しました兵庫医大から明和病院へ異動し、耳鼻咽喉科 頭頸部腫瘍担当部長に着任しました。私は高校時代からTVドラマの影響を受け、外科医に憧れていました。その後、研修医時代に顔面の半分近くを切除する手術や頭蓋底、喉頭全摘といったインパクトのある手術に衝撃を受け、がん治療後の嚥下・発声リハビリにより機能が回復し、患者さんが喜ばれる姿にやりがいを感じるようになりました。頭頸部外科医を志してからは、大阪府立成人病センター（現：大阪国際がんセンター）で基礎を学び、兵庫医大と合わせて約20年間、頭頸部外科医としての経験を積ませて頂きました。

明和病院の耳鼻咽喉科では奥中部長が耳専門で、兵庫医大の都築教授が鼻外来にいられており、あとは“咽喉”専門の医師がいればという事で私に声をかけて頂いたと伺っています。

当院で頭頸部診療をスタートするにあたって

は、他科でも癌治療のエキスパートの先生が多数在籍され、PET検査などの画像検査、放射線治療、外来化学療法室、ICUなどの設備も十分揃っていましたが、時期的に耳鼻咽喉科の常勤医師1人が産休中で、私と奥中部長2人体制で頭頸部の手術助手をどのように確保するかというのが最初の課題でした。頭頸部外科の手術は一般的には3名で行うためです。この問題も、診療看護師と連携をとることで解決できました。明和病院には診療看護師（2015年保健師助産師看護師法の改定により法制化。看護師として5年以上の経験+大学院で2年の専門教育後、資格認定試験に合格が必要）が2名在籍しており、手術助手や末梢挿入型中心静脈カテーテルの挿入や動脈穿刺、ドレーン管理、外来業務の補助など、多岐に渡り活躍しています。当初は勉強会や技術指導の場を設けて、頭頸部診療を知ってもらうところから始まりましたが、現在は痒いところに手が届くところまで成長してくれ、私生活でも親交を深め、正に耳鼻咽喉科teamの一員となってきています。着任してから診療看護師と85例の頭頸部手術を行ってきましたが、手術時間や出血量、合併症などを見ても、これまでと変わらず安全に手術ができています。医師の働き方改革も言われる時代で、コメディカルの方との連携、タスクシフト/タスクシェアの重要性を痛感している今日この頃です。

大学を離れて1年が経ちましたが、兵庫医大で勤務している時から、同窓生のフットワークの軽さや患者さんの気持ちに寄り添う部分は、どの大学にも負けていないのではないかと思います。関連病院に出向しても同窓生がたくさん活躍され、普段のたわいもない話から、重要な仕事の話まで何でも相談できるのはとても有難いです。これからも母校である兵庫医大に誇りを持って精進していきたいと思います。又、緑樹会、緑西会を通じてたくさんの同窓の皆様と交流させていただくことを楽しみにしています。私の当面の目標は、兵庫医大や地域の先生方と密に連携を取りながら、“最初から最後まで患者さんに寄り添える頭頸部診療体制を構築していくこと”です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

泌尿器小手術・在宅医療

医療法人社団 優 会

段上町 1-2-34

なかおクリニック
泌尿器科
相生町6-37

中尾 篤
平成9年卒
軟式テニス部

よしおかクリニック
泌尿器科
段上町1-2-34

吉岡 優
昭和63年卒・硬式テニス部

内科・循環器内科

藤川クリニック

藤川 洋子 H4卒・空手部

頑張っています!!

趣味その1♡
観劇
医師会宝塚愛好会
所属

趣味その2♡
声楽・舞台

甲子園口3-4-24

何でも気軽に相談できるクリニック

消化器科・内科・外科・肛門科

平川クリニック

平川 一秀
平成2年卒
アメリカンフットボール部
愛車・フェラーリ
趣味・ゴルフ

大屋町12-20

行私とスナックに
ましましよう

内科・循環器内科・消化器内科・外科

はまおかクリニック

浜甲子園1-1-9

濱岡 守
(H16卒・スキー部)

私に癒されてください

リョクニシ広報部のエース

消化器内科・外科・肛門外科・在宅訪問診療

おぐしクリニック

小串伊知郎 (H2卒・剣道部)

二代目院長
西宮“道一筋50年”

上大市5丁目12-15

hoshina eye clinic

**ほしな
眼科クリニック**

門前町3-2

保科 幸次
(平成3年卒/ラグビー部)

We love H.M.U!

URL <http://hoshinaeyeclinic.com/>

編集後記

親愛なる緑西会の皆さま、麗らかな春の日を、お元気でお過ごしのことと存じます。“100年前の、「スペイン風邪」の終息には3年かかったそうじゃ”、こんなコトバは、なんとなく頭の片隅にあり、今回のコロナ禍も、1年遅れの東京オリンピックも彼方に挟みながら、じわじわと3年が過ぎ、ようやく、久々の“春”の到来ではないでしょうか。

11号、NEXT Stageにはいり今号は新しいpartnerとの出会い、お色直しを行いました。装いはカラフルに、中核病院で要職に就く徳永先生、宇和先生、そして、100年に一回の混乱期を保健所所長という、とてつもない重職を務められる福田先生、のお三方、豪華執筆陣にお願いし、素敵な出来上がりとなりました!

広報部/保科・濱岡

兵庫医科大学同窓会緑樹会 西宮支部 緑西会会員数 **168名** R5.3.1 現在